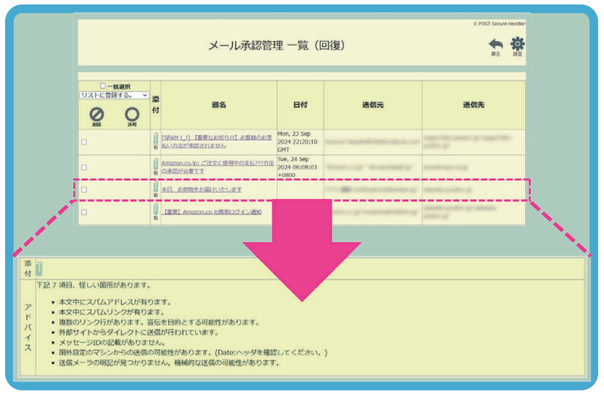
Web管理機能

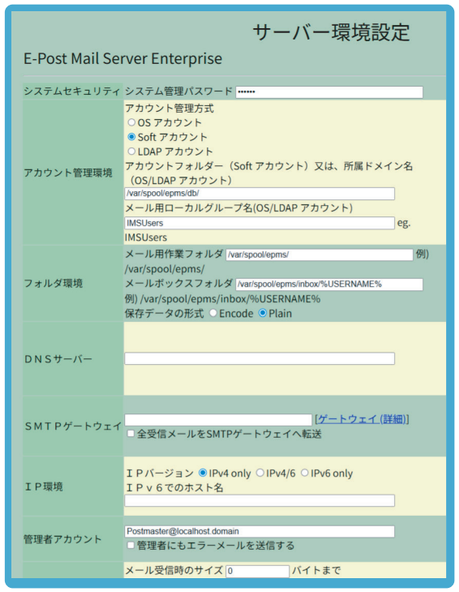
Webからのシステム管理が可能。
1カ所でまとめて管理できる「コントロールセンター」

メール承認管理機能 ※Enterprise版のみ

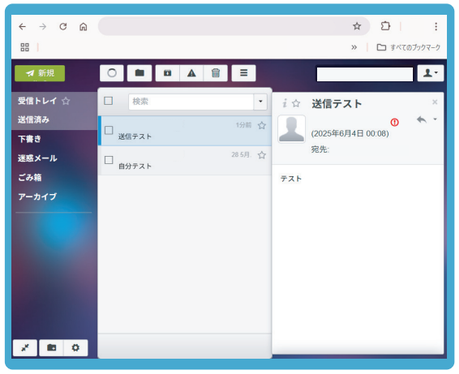
メールは23個のチェック項目で怪しさを判定、
不審なメールは一時保留され判定ポイントをわかりやすく表示。



サーバー設定画面



RainLoop設定後画面（イメージ）



仕様表はこちらからご覧いただけます。

E-Post
Mail Server V

Windows版の説明資料ですが、
Secure Handler機能についてはこちらをご覧ください。

E-Post
Secure Handler

ご用命は…

開発・販売元
株式会社 イー・ポスト
〒169-0075　東京都新宿区高田馬場 1-33-14
サンフラワービル
TEL：03-5272-5386　FAX：03-6856-9729
https://www.e-postinc.jp
問合せは sales@e-postinc.jp

e-POST

即日稼働のOS込みメールサーバアプライアンスモデル

E-Post Mail Server V

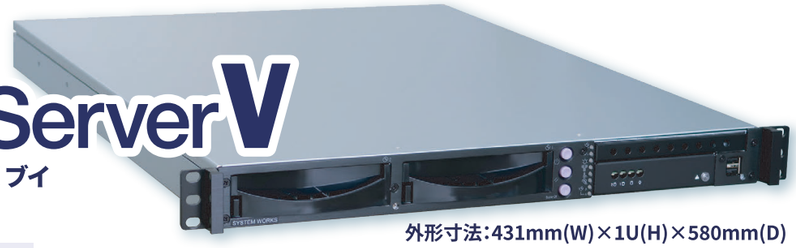
イーポスト メールサーバ ブイ

豊富な導入実績のある
E-Postシリーズを、アプライアンスに。
設置してすぐに使える、安心の専用機。

- メールサーバ専業ベンダーが送る 信頼性抜群のアプライアンス
- CALライセンスやOS費用がかからず 初期導入コストを大幅削減
- アプライアンスなので 設定・構築作業の導入期間を短縮
- 国内生産だからできる 膨大な日本語技術情報と安心のサポート体制

Windows版のメールサーバとして高い評価を得ている E-Post Mail Server のアプライアンス製品が復活!

E-Post Mail Server V
イーポスト メールサーバ ブイ



外形寸法:431mm(W)×1U(H)×580mm(D)

導入メリット

1. 歴史あるWindows版「E-Post Mail Server」シリーズの安定稼働の実績を踏襲。
2. BSD版環境のため、コストのかかる別途OSやCALの費用を見積もり不要。
3. わずらわしい設定・構築作業がなく、わずかな設定作業ですぐ本稼働できます。
4. あらかじめユーザー数規模で最適な構成にしているため、キッティング不要。
5. 国内生産であるため、参考資料・FAQなど膨大な日本語情報が充実。
6. 万が一のトラブルでも心配なし、万全の日本語サポート体制。

主な特長

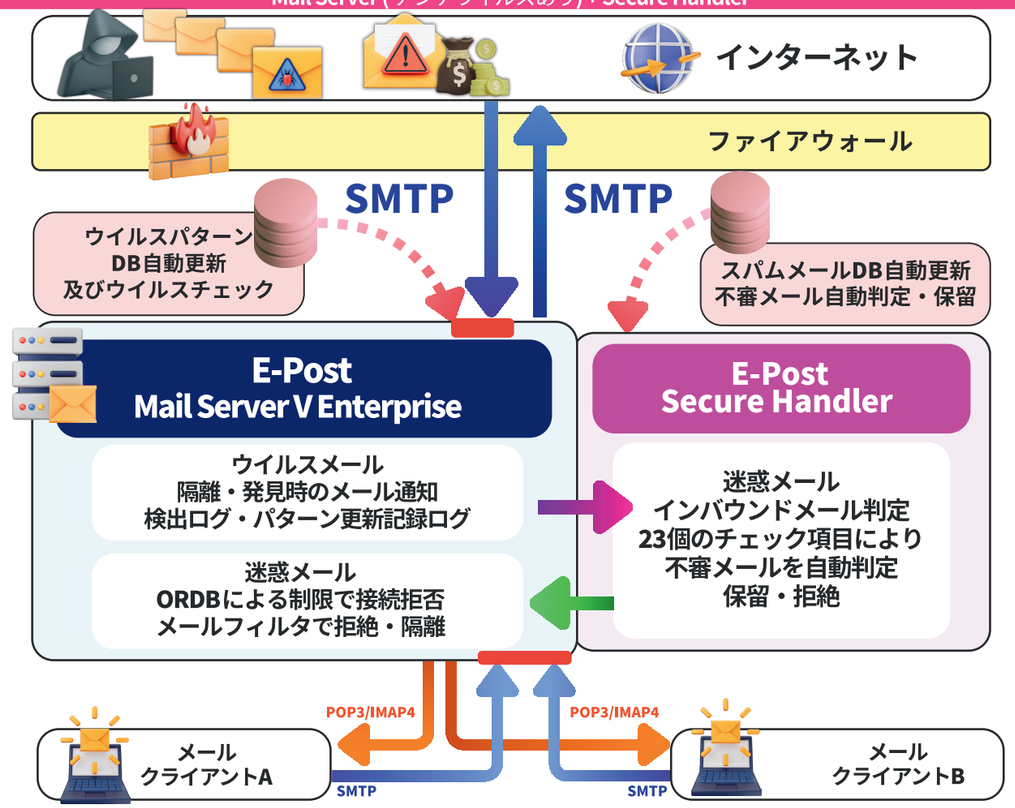
1. Webからの完全管理、SSHでのアクセスも可能。
2. メールサーバとして必要な条件を十分に満たすWindows版譲りの豊富な機能。
3. Standard版は、上長承認(BossCheck)機能を標準搭載。
4. 総当たり攻撃やDDoS攻撃へのセキュリティ対策強化。
5. PPAP代替の添付ファイル分離配送・ファイル受信通知機能。
6. Enterprise版は、アンチウイルス機能を装備。
7. Enterprise版は、不審・標的型・スパムなどのメール排除に有効なSecure Handler搭載。
8. WebメールソフトRainLoopをバンドル済み。1台でメールサービス提供が可能。

BSD版E-Post Mail Server Standard Enterprise Vシリーズ アプライアンス製品ラインアップ

製品分類・主要用途	Standard/Enterprise	スパム・ウイルス・標的攻撃対策	HW/SW区分	User ライセンス数	ハードウェアスペック	型番
Mail Server メールサーバ向き [SMTP/POP3/IMAP4]	Standard	・標準装備 (ORDB参照機能とメールフィルタによるSURBL参照機能)のみ	VHW (アプライアンス)	250User	・POWER MASTER Server Rシリーズ ・RAID1構成 HDD SATA 2TB×2 ・CPU Xeonシリーズ(4Core) ・メモリ16GB ※IMAP使用時1人当たりのメールBOX平均6GBを想定	EP-BEPMSV-S-250-PMR
	Enterprise	・Secure Handler付き (スパムDB判定・標的型攻撃対策・不審メール全般) ・アンチウイルス機能搭載 (ウイルスDBパターンマッチング検査) ・標準装備 (ORDB参照機能とメールフィルタによるSURBL参照機能)				EP-BEPMSV-E-250-PMR

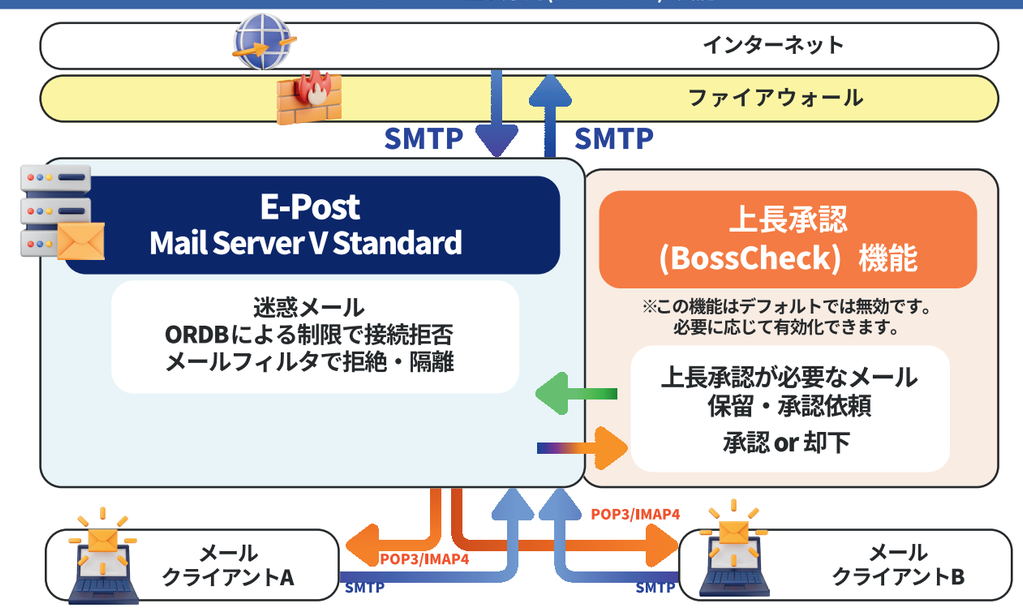
E-Post Mail Server V Enterprise 内部構成図

Mail Server(アンチウイルスあり)+Secure Handler



E-Post Mail Server V Standard 内部構成図

Mail Server +上長承認(BossCheck) 機能



E-Post Mail Server V シリーズ 機能一覧表

製品名		E-Post Mail Server V Standard (*0)	E-Post Mail Server V Enterprise (*0)
配送性能（運用環境により異なります）		～30万通/時間 (*1)	～数万通/時間 (*2)
管理ドメイン数		最大512ドメイン	
対応プロトコル		SMTP／POP3／IMAP4 (*3)	
暗号化通信（SSL/TLS/STARTTLS）		SMTP over SSL、POP3 over SSL、IMAP4 over SSL (*4) STARTTLS (SMTP)、STARTTLS (POP3)、STARTTLS (IMAP4)	
SMTP認証（SMTP AUTH）		○ (*5) （PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5）	
SMTP認証 送信者の信頼度設定		○ （3段階：SMTP認証ID・SMTP認証ID＝エンベロープ・SMTP認証ID＝エンベロープ＝ヘッダFROM）	
接続ロックアウト機能	SMTP認証接続ロックアウト機能	○ （設定回数以上SMTP認証失敗した同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可）	
接続ロックアウト機能	IPロックアウト機能	○ （設定回数以上SMTPで連続接続してくる同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可）	
SMTPゲートウェイ機能・フォワード機能 ゲートウェイテーブル【gateway.dat】		○ （フォワード先固定／対象ドメインごとの振り分け／対象メールアドレスごとの振り分け） （SMTP[基本・先進]認証付きで外部SMTPへの送信リレー設定も可）	
中継の制限機能【effect.dat】（SMTP受信送信の制限）		○ （IPアドレスや接続ドメイン名、メールアドレスでの許可・接続拒否、中継の許可・禁止など）	
ORDB参照機能【ordb.dat】(DNSBL方式)		○	
SMTP配送の詳細設定		○ （全体共通設定　永続的拒絶時のリトライ／一時拒絶時のリトライ／サーバ無応答時のリトライなど）	
SMTP配送の利用時間設定【usetime.dat】		○ (*6) （全体共通設定）	
SMTP配送・SMTP受信時の添付ファイル分離およびファイル受信通知		○ (*7) （メールデータEMLファイルの取得とファイル受信通知[メールストレージ機能]／CGIツール (*8) を使った添付ファイルの分離・取得とファイル受信通知[メールストレージ機能]）	
SMTP受信メールサイズ制限・同報数制限		○ （全体共通設定）	
メールボックス保管サイズ制限		○ （全体共通設定）	
メールフィルタ設定【mail.dat】		○ （全体共通設定　タイトル／本文／ヘッダ／URIBL［SURBL］サイト参照／拒否／タグ付け通過／指定アカウントへの転送など）	
SURBL/URIBL方式による参照機能		○ （上記メールフィルタ機能に用意）	
POP3認証方式		○ USER/PASS（平文）、APOP 、AUTH （PLAIN/LOGIN/CRAM-MD5）(*9)	
接続ロックアウト機能	POP3認証接続ロックアウト機能	○ （設定回数以上POP3認証失敗した同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可）	
接続ロックアウト機能	IPロックアウト機能	○ （設定回数以上POP3認証失敗した同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可）	
IMAP4認証方式		○ LOGIN（平文）、AUTHENTICATE （PLAIN/LOGIN/CRAM-MD5）(*10)	
接続ロックアウト機能	IMAP4認証接続ロックアウト機能	○ （設定回数以上IMAP4認証失敗した同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可）	
接続ロックアウト機能	IPロックアウト機能	○ （設定回数以上IMAP4認証失敗した同一IPアドレスに対する指定時間の接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する永続的な接続ロックアウト／指定IPアドレスに対する接続許可）	
E-Post方式ユーザー管理		○	
ActiveDirectoryユーザー管理との連携（LDAP）		○ (*11)	
OSアカウントとの連携管理		○ (*12)	
アカウント別設定	自動転送設定	○ (*13) （自動転送時の送信元指定など）	
アカウント別設定	自動応答設定	○ (*13)	
アカウント別設定	追加処理プログラム	○ (*14)	
アカウント別設定	メールボックス保管サイズ制限	○	
アカウント別設定	個別メールフィルタ設定【mail.dat】	○	
アカウント別設定	利用時間設定	○	
アカウント別設定	送信先制限設定【sender.dat】	○ （指定アドレス・ドメインの送信許可／送信禁止）	
アカウント別設定	SMTP受信制限設定【effect.dat】	○ (*15) （指定アドレス・ドメインの受信許可／受信禁止）	
アカウント別設定	SMTP認証設定	○ （認証あり・認証なし）	
アカウント別設定	POP3認証設定	○ （有効・無効）	
アカウント別設定	IMAP4認証設定	○ （有効・無効）	
アカウント情報のインポート・エクスポート		○ (*16)	

製品名	E-Post Mail Server V Standard (*0)	E-Post Mail Server V Enterprise (*0)
エイリアス	○ (*17)	
メーリングリスト機能	○ （連番、表題、Reply-To:ヘッダ、投稿パスワード、添付ファイル削除、投稿内容保管など）	
上長による承認／却下機能	○ (*18) （承認依頼メールによる上長の承認／却下の実行）	―
対応IPバージョン	IPv4／IPv6	
ログ取得機能	接続マシン／SMTP受信／SMTP受信詳細／SMTP送信／SMTPローカル送信／SMTP配送失敗／SMTP配送詳細／POP3受信／IMAP4受信／POP3受信詳細／IMAP4受信詳細 (*19)	
管理面のセキュリティ	○ （システム環境パスワード／ドメイン管理パスワード／メールボックスフォルダのデータ暗号化／アカウント情報エクスポート時のパスワード暗号化）	
Web管理機能（システム管理）	○ (*20) （システムログインパスワード／DNSサーバ／デフォルトゲートウェイ／システム停止・再起動／設定情報バックアップ・リストア）	
Web管理機能（メールサーバ管理）	○ (*20) （3階層：システム管理者・ドメイン管理者・個別ユーザー）	
Web管理機能（Secure Handler承認管理）	―	○ (*20) （保留メール閲覧による許可・拒否判定操作／強制拒否（ブラックリスト）／強制許可（ホワイトリスト）
コマンド操作機能（コンソール機能）	○ （システム環境／ドメイン管理／アカウント管理／エイリアス設定／メーリングリスト設定など）	
milter インターフェース機能	○ (*21)	
アンチウイルス機能［ファストスキャン Anti-Virusエンジン］	―	○ (*22) ウイルスメールの隔離／ウイルス発見時のメール通知／ウイルス検出ログ／ウイルスパターン更新記録ログ）
E-Post Secure Handler機能による総合的なメールセキュリティ対策（詳細は別表を参照）	―	○ (*23) 怪しい不審メール防御、標的型攻撃メール防御、スパムメール排除等
迷惑メール対策（まとめ）	・ORDB参照（DNSBL方式）機能 ・メールフィルタによるSURBL/URIBL方式による参照機能	・Secure HandlerによるスパムサイトDBのマッチング判定 & ・ORDB参照（DNSBL方式）機能 ・メールフィルタによるSURBL/URIBL方式による参照機能
送信ドメイン認証対応	SMTP受領時での DMARC/DKIM/SPF対応機能 （オプションツール EPSTDMARC/EPSTDKIM/GETSPFを付属）(*24)	
ログ解析・集計レポート機能	ログ解析・集計レポート機能 （ツール FreeBSD版 E-Post Loganalyzer を付属）(*25)	
メールボックス使用状況レポート機能	ログ解析・集計レポート機能 （ツール FreeBSD版 E-Post Loganalyzer を付属）(*25)	
ユーザーへのメールボックス使用量警告メール機能	ログ解析・集計レポート機能 （ツール FreeBSD版 E-Post Loganalyzer を付属）(*25)	
簡易アーカイブ（メールバックアップ）	全メール複写機能 及び ジャーナル機能	

(*0) BSD版 E-Post Vシリーズはすべて64ビット版です。E-Postとは別に、IMAP4対応Webメールシステムとして RainLoop Community Edition がバンドルされ、インストール及び基本設定済みです。

(*1) ネットワーク負荷のない理想的な環境でのメールサイズ2～3KB程度による試験結果です。なお、アンチウイルス機能を持つ Enterprise版での配送能力は、アンチウイルス機能を搭載しない Standard 版に比べて、約1/3～1/10程度に下がります。メールフィルタの設定を多数登録しているときも、設定量だけ負荷がかかり、配送能力はその分低下します。

(*2) ネットワーク負荷のない理想的な環境でのメールサイズ2～3KB程度による試験結果です。メールフィルタの設定を多数登録しているとき、設定量だけ負荷がかかり、配送能力は低下します。

(*3) POP3プロトコル使用時は、1サーバ10000ユーザークラスの大規模利用でも、サーバの能力さえあれば理論的に問題は少なく使用実績もあります。一方、IMAP4プロトコル使用時は最大でも1サーバ500ユーザークラスまでとしており、アプライアンス製品では250user版を用意しています。

(*4) SSL通信を検証するだけなら自己認証局でも十分ですが、本格運用にあたっては正規の認証局（CA）による証明書の発行と取得が必要です。最新版では、SSLは廃止され、TLS1.0～TLS1.3に対応します。

(*5) 認証ファイルによりユーザーごとのSMTP認証有無設定が可能です。

(*6) 利用するには全体共通設定の設定ファイルusertime.datをコンソールから直接記述設定する作業が必要です。

(*7) 同機能は付属オプションCGIツール getattach の導入・設定作業が必要です。ApacheのWebサーバ環境を利用します。

(*8) CGIツールの getattach は新規ご購入時にはバイナリインストール済みですが導入・設定作業は未設定です。

(*9) APOP認証とSMTP認証で使われる認証ファイルは共用です。AUTHはSASL（Simple Authentication and Security Layer）と呼ばれる認証方式で、E-Postでは便宜上POP-AUTHと呼んでいます。利用するにはメールクライアント側の対応が必要です。

(*10) IMAP4サービスの認証方式は PLAIN/LOGIN/CRAM-MD5 対応となります。

(*11) Active Directory連携はLDAPによる管理方式です。POP3認証時またはIMAP4認証時のユーザー名・パスワード部分が連携されます。SMTPではユーザー情報のみが連携されます。SMTP認証パスワードは連携しません。

(*12) SMTPではユーザー情報のみが連携されます。SMTP認証パスワードは連携しません。

(*13) 自動転送機能と自動応答機能とは排他でいずれかの設定が可能です。両方とも有効にする設定はできません。また自動応答機能でWeb管理画面から編集できる自動応答文については強制的にJIS（iso-2022-jp）に変換して登録されます。

(*14) 追加処理プログラムで指定できるのは標準コンソールで動作するプログラムやスクリプトのみです。

(*15) アカウント単位の設定ファイルeffect.datは［送信先制限（sender.dat）］の入力項目を［送信先制限（effect.dat）］と入力するとeffect.datの編集が行えます。

(*16) タブ区切り形式テキスト（TSV）により可能です。エクスポート時にはレコードの行末はLFとなります。インポート時のレコードの行末はLFおよびCRLFが有効です。

(*17) エイリアスは実アカウントとの関連づけが原則です。エイリアスどうしの関連づけは対応しません。なお、作成エイリアスは必要ライセンス数としてカウントされます。

(*18) 上長側が承認・却下するメールソフトは、RFCで規定されている mailtoリンクが使用可能である必要があります。mailtoリンクが正常に働かないWebメールソフトでは対応が困難なことがあります。Enterprise版では Secure Handler 機能実装のため、実質的に上長承認（BossCheck）機能は利用できません。Secure Handler機能と上長承認（BossCheck）機能を同時に使用することはできません。

(*19) 記録ログの行末はLFで改行されます。Windowsマシンにダウンロードして開くときにはLFコードを改行として認識できるエディタで開いてください。

(*20) Web管理機能は、ApacheのWebサーバ環境を利用しています。E-Post Vシリーズではすべて設定済みです。

(*21) E-Post V シリーズに搭載されている milterインターフェースでは次のソフトウエア clamav-milter / spamass-milter / milter-greylist が動作確認されており、補足マニュアルに設定手順を掲載しています。
●clamav-milter（Clam AntiVirus［クラムアンチウイルス、略称Clam AV］。SMTPサーバ と clamd のソケット通信を行うプログラム）●spamass-milter（SpamAssassin［スパムアサシン］はスパムフィルタリングのプログラム）●milter-greylist（受領メールがスパム等の怪しいメールと判断した場合、一時受領拒否し再送されたメールを受領するプログラム）

(*22) アンチウイルス機能はインターネット接続環境が前提です。アンチウイルス機能はSMTP受信するメールに対してのみ働きます。マシン全体のウイルス検査 SpamAssassin（スパムアサシン）はできません。Anti-Virusエンジンのファストスキャンは、株式会社ケイ・テックの製品ならびに商標です。

(*23) Secure Handler 機能はインターネット接続環境が前提です。Secure Handler 機能は Enterprise 版に実装されています。くわしい機能は別表を参照してください。

(*24) SMTP受領時でのDMARC対応ツールは2024年2月公開の送信ドメイン認証（DMARC/DKIM/SPF）アドオン EPSTDMARC v1.06です。EPSTDMARCを設定することでDMARC/DKIM/SPFのすべてを含む対応が可能になります。その他従来からの付属ツールとして、DKIM対応の送信ドメイン認証（DKIM）アドオンのEPSTDKIMおよびOpenDKIM、SPF対応の送信ドメイン認証（SPF）アドオン GETSPFがあります。OpenDKIMを設定するには、MILTER機能を有効にする必要があります。EPSTDMARC/EPSTDKIM/GETSPFの各ツールは、新規ご購入時にはバイナリインストール済みですが導入・設定作業はすべて未設定です。

(*25) FreeBSD版 E-Post Loganalyzer はコンソールからコマンド操作やスクリプトで動作するツールです。定期実行には crontab コマンドを利用します。Loganalyzerは新規ご購入時にはインストール済みです。

E-Post Secure Handler 機能一覧表 (*0)

メール保留条件（ハンドリングルール）	・エンベロープの受信先（ドメイン・アカウント） ・エンベロープの送信元（ドメイン・アカウント） ・メールヘッダの受信先（ドメイン・アカウント） ・題名でのキーワード ・リンク情報（本文掲載のURL） ※いずれも複数指定（ワイルドカード指定）可
判定方法	・保留メール通知からのメールによる許可・拒否判定操作 ・ブラウザから保留メール閲覧による許可・拒否判定操作 (*1) ・アプリによる許可・拒否自動判定 (*2) (*3)
強制拒否（ブラックリスト）	・送信元エンベロープの登録・削除・閲覧（システム・ブラウザ） ・題名の登録・削除・閲覧（システム・ブラウザ） ・リンク情報（本文掲載のURL）の登録・削除・閲覧（システム・ブラウザ）(*4) ※いずれも複数指定（ワイルドカード指定）可
強制許可候補確認	・アプリにより許可判定された送信元エンベロープ・題名を直接リスト登録せず目視による操作で最終判定
強制許可（ホワイトリスト）	・送信元エンベロープの登録・削除・閲覧（システム・ブラウザ） ・題名の登録・削除・閲覧（システム・ブラウザ） ・リンク情報（本文掲載のURL）の登録・削除・閲覧（システム・ブラウザ） ※いずれも複数指定（ワイルドカード指定）可
メンテナンス	・判定待ちリストの取得機能（承認者） ・履歴の取得・履歴の削除（管理者のみ） ・許可・拒否の結果履歴ログ（システム）
拒否メール判定回復機能	・判定ミス等で一旦拒否されたメールを許可メールとして回復（ブラウザ）

(*0) E-Post Secure Handler 機能が実装されるのは、E-Post Mail Server Enterprise V シリーズのみです 。

(*1) Web管理に「Secure Handler」タブが用意されていますので、ブラウザによる保留メール閲覧による許可・拒否判定を行います。23個のチェック項目によって不審メールと判断されるアドバイス情報が表示されます。不審な添付ファイルがある場合、VirusTotal（ウイルストータル）サイトでのウイルス・マルウェア検査を行うよう促します。

(*2) 定期的に自動判定を行うように、自動実行コマンドを呼び出すスクリプトが用意されており、OS内のcronコマンドにて定期的に実行されます。アプリによる許可・拒否自動判定を行うコマンドは次年度更新継続が前提です。

(*3) 自動判定実行時には、弊社独自に用意したスパムリンクデータベースが運用マシン上にダウンロードされます。利用には100MB程度の空き領域が別途必要です。データベースダウンロードは次年度更新継続が前提です。

(*4) 自動判定実行時にダウンロードされたスパムリンクデータベースは、拒否リンク一覧テーブル（リンク情報のブラックリスト）に自動的に反映され、スパムメールや危険なメールを拒否する判定目的に利用されます。

OS及びハードウェア仕様

組み込みOS	FreeBSD 14.2（E-Post Vシリーズには組み込み済み）	HDD	SATA HDD2TB×2（RAID1ミラーリング構成）		
CPU	Xeon E-2434（4Core/3.4GHz/55W）（2025年6月時点）	メモリ	16GB	LAN	1Gb Ethernet×2